最優秀賞

未来の自分のために

岡崎市立額田中学校　３年　長坂　芽依

泥にまみれた食器、倒れた冷蔵庫、砂と泥だらけの床。一体何が起こったのか。

この光景は、浸水した親戚のおばさんの家の復旧作業を手伝いに行ったときに、目の当たりにした光景です。

二〇二三年六月二日。私の住んでいる岡崎市で、大雨により浸水や土砂崩れなどの被害が出ました。そこで私の親戚のおばさんの家が浸水の被害にあい、復旧作業を家族で手伝いに行きました。そして、この光景を目にしたとき、私は何をしたらよいのか分からず母と同じ手伝いをすることしかできませんでした。泥々のお皿を洗ったり、ふいてもふいても砂が出てくる床をふきながら、災害の復旧の大変さを感じました。

「今日は来てくれてありがとうございます。ここも、お願いしていいですか。」

お願いされ近所の人や消防団の人などたくさんの人が手伝っていたことに気づき、もっとがんばろうと思えました。

この経験から、災害が起こったときのために大切な三つのことに気付きました。それは、知識をつけること、地域と協力すること、対策をすることです。

まず、知識をつけるためには、一人一人が災害に対する関心を持つことが大切だと思います。しかし、災害に関心を持つ機会が少ないというのが現状です。なぜ災害に関心が持てないのか。私はその理由に、災害がおこった時の被害しかニュースで放送されないからだと考えます。例えば、地震によってたくさんの建て物が倒壊したなどの被害がニュースなどで放送されます。それを見て、大変だと思う人が多いと思いますが、どこか現実味がなく自分とは遠いものであると考える人も多いと思います。それは、自分のまわりで同じことがおこるかもしれないということをイメージできていないことが原因だと考えます。そこで、おこった被害の復旧の様子や困っている人々の声をニュースなどで届け、災害が自分と遠いものではないと思ってもらうことが重要だと考えます。

次に、地域と協力することです。今回の経験で、災害がおこったときには地域との協力が必要不可欠だと感じました。そこで、災害がおこったときの避難場所を地域全体で確認したり、各町で防災訓練を実施したりするとよいと考えます。内閣府が発表している防災に関するアンケートでは、防災訓練に参加したことがあるかという質問に対し、四割が存在を知らなかったと答え、知っていたが参加したことがない人を合わせるとおよそ七割でした。実際に私も存在を知らず、参加したことがありませんでした。そこで参加するハードルを少しでも下げるために各町で開催したり、チラシで呼びかけたりするとよいと考えました。

最後は、対策することです。今私がやろうとしていることは、家族や学級で災害に対する対応や準備について話し合う場をつくることです。現在、家族で安否確認方法などについて決めている人はおよそ三割ととても少ないです。特に若い世代の人の方が関心を持っていない傾向があるというデータもあります。そこで、家族で防災グッズを作ってみたり、学級で災害別の対応について話し合い、確認しておくことはとても重要だと考えます。

知識をつけて地域と協力して対策する。今回の災害から学んだことを忘れず、自分でもっと調べながら家族や友達にも呼びかけていきたいと思いました。

今の日本では、南海トラフ巨大地震をはじめ、いつ大きな災害があるかわかりません。「未

来の自分のために、今の自分ができることはなにか。」このことを常に頭において、日々のニュースで放送されている災害を決して他人事のように流さず、自分がその立場だったらどうするかを考え、対策することが大切だと思います。

優秀賞

おばあちゃんちの裏山

豊橋市立南陽中学校　１年　小出　大輔

皆さんは、なぜ土砂災害が起こると思いますか？土砂災害が起こる原因として台風の大雨や最近よく耳にする線状降水帯による数時間による強い雨また地震などの自然現象が原因で発生する災害の一つです。

土砂災害が特に起きやすい場所として山間部などで多く発生しています。

日本は、２０１４年から２０２３年の１０年間で平均１４９９件発生している土砂災害の多い国です。理由としては、山間部が多く土砂災害が発生しやすい地形が多い国だからです。

土砂災害が発生すると復旧までに多くの時間がかかります。人命救助には、７２時間の壁というのがありこの時間を過ぎると生存率が急激に低下するためすこしでも早く救助をしなくてはならない。ライフラインの復旧（電気、ガス）までには約３日〜１週間程掛かると言われています。また元の生活に戻るまでには、数年掛かるといわれています。

土砂災害は、人の命を奪い僕達が当たり前に過ごしている時間を一瞬で奪ってしまいます。このような災害が起こった時どのように行動するのか！土砂災害の前兆として山鳴り、地鳴り、段差の発生、異臭があります。このようなことに気づいたら直ぐに避難することが大事です。避難袋も忘れずに。

土砂災害が起こってからでは遅いです、天気予報をこまめに確認して落ちついて行動することが大切です。

令和５年６月に発生した台風２号を覚えていますか？この時は、台風と線状降水帯が発生し豊橋市でも梅田川が氾濫し道路が水没、多くの住宅が浸水しました。もし僕の家まで水が来たらどうしようと心が不安で一杯だったことを今でも覚えています。

この台風の時山に囲まれたおばあちゃんのことが心配になり電話をしてみると大丈夫と言っていましたが、心配だったので週末行ってみると行くまでの道路は土砂崩れが起きていて通れなくなっている場所が何か所かあり本当に大丈夫かと心配になりました。

おばあちゃんの家に着いてみると家の前の山から木が流れ落ちて道路を埋めていました。おばあちゃんちの近所の人達が木をどかしているのを僕も少し手伝いました。おばあちゃんちは、大丈夫でしたが色々なところで土砂災害が起こっていました。少し離れたおばあちゃんちの田んぼは、埋まってしまいました。

復旧を手伝ってくれた人達はこの状態で雨が降るともっと大きな土砂災害が発生していたといっていてとても怖いと感じました。

おばあちゃんの家に帰りお家がなんとも無くてよかったねと話しているとお家の裏には砂防工事してもらってるから大丈夫だよと言われて、でも砂防工事が何かわからなくて調べてみると人々の命や財産やインフラを守る土木工事です。具体的には、土石流やがけ崩れなどの災害を防ぐ砂防ダムの設置など土砂災害の発生を未然に防ぐことも砂防工事の一部ですということがわかりました。

今までは、鬼ごっこやかくれんぼや登ったりして遊んだりしていたけどこのコンクリートと鉄の柵がおばあちゃんの家とおばあちゃんを守ってくれてると思うと感謝の気持ちで一杯です。

僕はこの経験をしたことで土砂災害、自然災害に対して意識が変わったと思っています。土砂災害や自然災害が起きる前にひごろから知識と準備をすることが大切だと思います。

知識として土砂災害が起こる前兆や避難経路の確認、避難場所、家族との連絡方法をしっかり決めておくことが大事です。準備として必要なことは、防災袋（水２Ｌ×１５本、カセットコンロ、ボンベ×８本、ＬＥＤ、乾電池×４７本、乾電池式モバイルバッテリー３個以上、パックご飯×１２個、簡易トイレ７２回、手回しラジオ、カイロ、電池式の扇風機）このような準備が必要です。

僕が感じたことは、災害について家族で話あったり家族で避難所まで歩くと本当にこの避難経路で大丈夫かを家族で話し合うと安全に避難所まで行けると思いました。

防災袋の中身を１か月に１回ほど確認してみるともしもの時使えなくて困るというのが減って良いと思いました。

優秀賞

土砂災害から命を守るために

豊橋市立南陽中学校　１年　前田　れあ

近年で日本各地で豪雨による土砂災害が増えているとニュースなどで知りました。大雨のたびに、家や道路が押し流され、多くの人々が避難を余儀なくされる様子を見たとき、自分は自然の恐ろしさを強く感じました。同時にもともと自分が住んでいた地域にも山や川があり、決して他人事ではないと気づきました。防災学習で学んだ「災害には前ぶれがある」という言葉を思い出し、もし自分や家族がその状況に出会ったらどうすべきかを改めて考えたいと思いました。

日本は地形や気象の特性から、土砂災害が起こりやすい国だと言われています。山が多く、急な斜面が広がっており、さらに梅雨や台風などの大雨が毎年のようにやってきます。これらの条件が重なると、土砂崩れや土石流が発生しやすくなります。実際に、二千十四年の広島豪雨では大規模な土砂崩れが起こり、多くの住宅が被害を受け、七十人以上が命を落としました。さらに、二千二十一年には静岡県熱海市で大規模な土石流が発生し、多くの人が犠牲となりました。こうした出来事は土砂災害が自分たちの身近な脅威であることを強く示しています。

自分が学校で学んだ中で特に印象に残っているのは、土砂災害には必ず「前ぶれ」があるということです。たとえば、山の斜面から小石が落ちてくる、地面にひび割れができる、川の水が急ににごる、山から水がしみ出す音がする。こうした変化は危険のサインです。これらを見逃さず、早めに避難することが何よりも大切だと知りました。実際に災害時に命が助かった人の多くは、こうしたサインに気づいて行動した人たちだと聞きました。

しかし、知識があっても実際に行動に移せなければ意味がありません。人はどうしても「自分は大丈夫だろう」「まだ危険じゃないだろう」と考えてしまいます。その油断が命をうばう大きな原因になるのだと思います。自分はこれを知って、自分も同じように考えてしまうかもしれないと不安になりました。だからこそ、日ごろから避難経路を確認しておき、「危ないかもしれない」と感じたら直ぐに避難する勇気を持ちたいと思います。

また、地域や行政が行っている防災の取り組みにも注目する必要があります。どこが土砂災害の危険区域なのか、どこに避難所があるのかをちゃんと知り、知っておくだけでもいざという時の安心感が違います。さらに、砂防ダムや排水路の整備など、土砂災害を防ぐための施設も作られています。私たちの目に見えないところで多くの人が努力していることを知り、感謝の気持ちを持ちました。

自分自身も家族と防災について話し合ったこともあります。いろんな意見がでて具体的に決めておくことはとても大切だと感じました。防災は一人でできるものではなく、家族や地域の人と協力して行うものです。近所の人との声かけや助け合いも、災害時には大きな力になります。

土砂災害は、自然が相手である以上、完全に防ぐことはできません。しかし、被害を減らすためにできることはたくさんあります。

普段から危険な場所を知り、いざという時にどう動くかを考えておくこと。防災用品をそろえ、家族や友人と考えておくこと。そして何よりも「自分の命を守ることは自分の責任だ」という意識を持つこと。これらの積み重ねが、災害から命を守る一番の力になると思います。

自分はこれからも防災についての知識を深め、災害が起きたときに冷静に行動できるようになりたいです。

そして、自分だけでなく、周囲の人の命を守れるような人間に成長したいと考えています。机の上で学ぶよりも強い印象として残っています。

自分は今回の学びを活かし、日々の生活の中で「防災の意識」を忘れずに持ち続けたいと思います。

佳作

命を守るために土砂災害から学ぶ

豊橋市立南陽中学校　２年　村井　奏介

「ゴゴゴゴ…」という音とともに、山が崩れ、土や石が一気に町を飲み込んでいく。テレビで見た土砂災害の映像は、まるで映画のワンシーンのようだった。でも、それは現実であり、そこには人々の生活があった。僕はその映像を見て、土砂災害の恐ろしさと、自分たちにできることについて考えるようになった。土砂災害とは、大雨や地震などによって、山や斜面が崩れたり、土や石が流れたりする災害のことです。代表的なものには「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」があります。これらは突然起こることが多く、逃げる時間がほとんどないため、とても危険です。日本は山が多く、雨もよく降るため、土砂災害が起こりやすい国です。特に梅雨や台風の時期には、注意が必要です。僕の住んでいる地域も山に囲まれていて、過去に小さながけ崩れが起きたことがあります。土砂災害の主な原因は、自然の力です。大雨が続くと、地面に水がしみこみ、土がゆるくなります。そこにさらに雨が降ると、土が重くなり、支えきれなくなって崩れてしまいます。また、地震によって地面が揺れると、斜面が崩れることもあります。でも、原因は自然だけではありません。人間の活動も関係しています。例えば、山の木を切りすぎると、斜面が不安定になります。つまり、私たちの生活が土砂災害を引き起こすこともあるのです。土砂災害が起こると、家が壊れたり、人がけがをしたり、命を失うこともあります。道路がふさがれて、救助や物資の運搬ができなくなることもあります。学校や病院が使えなくなると、生活がとても不便になります。２０２０年の熊本県の豪雨では、多くの土砂災害が発生し、たくさんの人が亡くなりました。ニュースで見た避難所の様子は、マスクをつけた人たちが不安そうに過ごしていて、胸が痛くなりました。災害は、誰にでも突然やってくるものだと感じました。土砂災害を防ぐためには、個人の努力だけでなく、地域全体での取り組みが重要です。地域の防災活動には、避難訓練や、防災講習会、ハザードマップの共有などがあります。これらの活動に参加することで、地域の人々と協力しながら災害への備えを強化することができます。私の住んでいる町でも、自治会が中心となって防災訓練を行っています。昨年の訓練では、実際に避難所まで歩いてみたり、消火器の使い方を学んだりしました。地域の人たちと顔を合わせて話すことで、いざという時に助け合える関係が築けると感じました。また、家族で防災について話し合うこともとても大切です。災害が起きたとき、家族がバラバラになってしまう可能性があります。そんな時に備えて、連絡方法や集合場所を決めておくことが必要です。僕の家では、災害時に使う持ち出し袋の中身を一緒に確認したり、避難ルートを地図で確認したりしています。家族で話し合うことで、みんなが安心して行動できるようになります。特に小さな子供やお年寄りがいる家庭では、誰がどのようにサポートするかを決めておくことが重要です。防災は１人ではできません。地域や家族と協力してこそ、命を守ることができるのです。次に、「早めの避難」が重要です。雨が強くなってきたら、テレビやインターネットで気象情報をチェックし、避難指示が出たらすぐに行動することが命を守ることにつながります。「まだ大丈夫」と思っていると、逃げるタイミングを失ってしまいます。また、地域での協力も大切です。お年寄りや体の不自由な人がいる場合は、みんなで助け合って避難することが必要です。学校でも避難訓練がありますが、家でも避難の練習をしておくと安心です。前に学校で防災訓練がありました。実際にやってみると、いろいろなことに気づきました。まず、

避難の時に周りをよく見て行動することが大切だと感じました。友達の中には、慌てて走って転びそうになった人もいました。災害のときは冷静に、安全なルートを選んで避難することが必要です。そのとき先生が言った「訓練は命を守るための準備です」という言葉が心に残りました。実際の災害では、訓練で学んだことが役に立つのだと思います。僕はまだ中学生で、できることは限られています。でも、家族や友達と話し合ったり、学校で学んだことを伝えたりすることはできます。防災についての知識を持つことは、自分だけでなく、周りの人の命を守ることにもつながります。防災訓練に参加してから、家でも避難ルートを確認したり、非常用持ち出し袋を見直したりしました。小さなことでも、準備しておくことで安心につながります。土砂災害はとても怖いものです。でも、正しい知識と準備があれば、被害を減らすことができます。僕はこれからも防災について学び、家族や友達と話し合っていきたいと思います。そして、いつか自分が誰かの命を守ることができるように、しっかりやっていきたいです。

佳作

土砂災害は油断禁物

豊橋市立南陽中学校　２年　河合　昭英

僕は、昨年の八月二十七日に、蒲郡市竹谷町大久保で発生した土砂災害のニュースを見ました。死者三名、負傷者二名、家屋の全壊一戸となる重大な被害でした。当時、災害映像を見て、近い所でこんな大きな土砂災害があるなんてびっくりしました。家が土砂に埋まって、形がなくなっていたからです。家の中に住人が居て、きっと逃げる間もなくあっという間にのみ込まれてしまったのだと思いました。僕の家の近くで小さな土砂崩れのせいで道路が通れなくなった事があります。それとは全然規模が違うなと思いました。もし自分の家が同じ様な災害にあったらと思うととても恐くなりました。

近い場所で、二年前の六月二日に豊川市御津町広石で土砂崩れがありました。僕の祖母が近くに住んでいたのでその時はとても心配になりました。父も心配だった様で、電話をして安否確認をしていました。祖母は

「うちの方は地盤がかたいから。」

と、言っていました。

近い場所でも安全な所とそうでない所があるのだろうか？何が違うのか、またそれを防ぐ方法はないのかと土砂災害について調べてみる事にしました。

土砂災害は大雨や地震などの影響で山や崖の土砂が崩れたり、斜面を滑り落ちたりする現象です。特に大雨によって地盤が緩んだり地下水が上昇したりすることが、土砂災害の発生を促す主な要因となります。

土砂災害は大きく分けて三つのタイプに分類されます。

一つ目の土石流は谷や斜面に堆積した土砂や岩石が大雨によって水と混ざり合い一気に流れ下る現象です。

二つ目の崖崩れは岸や斜面の土砂が雨水や地震の影響で突然崩れ落ちる現象です。

三つ目の地すべりは比較的緩やかな斜面で地下水の影響で地盤がゆっくりと滑り落ちる現象です。蒲郡と御津の災害は、一つ目の土石流のタイプだと思いました。蒲郡の災害調査報告書に「大量の表流水の関わりにより、流動化した土石流の形態で斜面を高速で流れ下った」と書いてありました。水を多く含んだ土砂だった事がわかります。

次に土砂災害を防ぐ方法を調べてみました。土砂災害を防ぐ為には主にハード対策は土石流をせき止めるための砂防ダムの設置。がけ崩れを防ぐためにコンクリートなどで斜面を覆う擁壁の設置。がけ崩れが発生しやすい斜面にコンクリートの枠を設置し、土砂の流出を防ぐ法枠工。樹木や草を植えることで土砂の流出を防ぎ、斜面の安定性を高める植生工があります。そしてソフト対策は土砂災害の危険箇所や避難場所、避難経路などを地図に示したハザードマップの作成。避難訓練の実施。避難勧告や避難指示を迅速に伝えるための情報伝達体制を整備する。土砂災害発生の危険性が高まった際に、住民が速やかに避難できるよう、警戒避難体制を整備する。危険箇所の指定や開発行為の制限などを行う土砂災害防止法の推進です。こんなにたくさんの対策があるとは知りませんでした。僕は自分の町の土砂災害ハザードマップを確認してみました。自宅周辺は警戒区域に入っている所はありませんでした。でも、少し離れた所に黄色く色のついた場所がありました。やはり前に見た土砂崩れのあった場所がありました。自宅の周りが大丈夫だからといって安心してはいけないと

思います。山の近くに住んでいる人達は、いままで大丈夫だったからと警戒しない場合があります。いつもと雨の降り方、水の量が違うなど、ちょっとした少しの変化に気づいて避難してほしいです。僕の祖母も、地盤が固いから大丈夫と言っていたけど、地域のハザードマップで警戒区域と避難場所の確認はしておいてほしいです。全てが予想できるものではないので油断してはいけないと思いました。

最後に土砂災害を防ぐために、まず地域の土砂災害マップで警戒区域と避難場所を確認しておく。家族や地域の人達にも教える。大雨や地震などで水が多くなった場所や変化のあった場所があったらすぐに知らせるなどです。

土砂災害から身を守るためには事前の備えと、発生時の適切な行動が重要です。正しい判断ができるように日頃から災害を意識して生活しようと思いました。

佳作

土砂災害から命を守るために

豊橋市立南陽中学校　２年　中島　新太

今年の夏、九州では、異例の遅さの台風の影響から局地的な大雨が続いたことにより、土砂災害が起きたというニュースを見ました。川のようになった道路に車が流されているようすを見て、僕が住んでいる愛知県豊橋市では、豊かな自然が多く、のどかな田んぼや山が見えるところなどが広がっていますが、土砂災害危険がゼロという訳ではなく、豊橋市のホームページの土砂災害警戒区域マップを見てみると、意外と多くの場所に黄色や赤のマークがついていました。特に山の近くや崖のそばの住宅地では、雨が長く続くと土砂が流れだす危険があるそうです。僕の通う中学校の近くにも土砂災害の危険があることを知りました。南陽中のすぐ北側にがけくずれの危険があり、マップには、オレンジや赤で「土砂災害警戒区域」がいくつも示されていました。特に丸山町や一色町などのエリアが土砂災害の警戒区域になっていました。

これは、ちょっと近いレベルじゃないので、避難所として、市民館や、小学校・中学校が指定されているが、実際に土砂災害が起きたとき、どのようなルートを使って避難所まで避難すればいいのか家族としっかり話し合いいろいろと決めておかなければいけないと思いました。すぐ近くに川が流れているので大雨により氾濫したことが何度もあるので、マップだけにたよらず、僕にできることはないのか考えてみることにしました。そう考えたときに土砂災害についてもっと理解しておくべきだと思いました。

調べてみると土砂災害には大きく分けて３つあり「崖くずれ」「地すべり」「土石流」に分けられることがわかりました。

崖くずれは、雨水が崖の中にしみこんで、土や石が一気にくずれおちる現象で、次に、地すべりは、山やがけの傾斜がゆっくりと動いていって広い範囲に被害をもたらすもので、最後の土石流は大雨で山の土や石が川のように流れ出し、一気に家や人を押し倒していくものだそうです。どれも、一晩の間で命がなくなってしまうような恐ろしい力を持っていることもわかりました、。

国土交通省や気象庁のホームページには、土砂災害を予想する「キキクル（危険度分布）」や「土砂災害警戒情報」などが出されていて、リアルタイムでどの場所がどのくらい危険なのかを色で示してくれています。僕の住んでる地域は、高台なのでよっぽど赤くなることはないけど、道が水でしずんでしまうことがあり、買い物にいけなくなったり、けがをしたときに救急車などが来られなくなってしまうかもしれないから、大雨が続きそうだったら、水・電気・ガスなどのライフラインなどに困らないように備えておくことが大切だと思いました。もう一つ、大切に思ったことは、「早めの避難」です。多くの災害では、「逃げるのが遅れた」だけで命取りになると聞き「早めの避難」が重要だと気づきました。土砂災害は夜中に起こることも多く雨の強さや音、警報など少しのいわ感を信じ「少し早いかも」と思っても避難することが大切だと思います。また学校や地域の避難訓練をもっと真面目にやろうと思います。

災害はいつ・どこで起こるかわからないから、僕たち中学生ができることを少しでも出来ることとして、「知る」「備える」「伝える」をしていきたいと思いました。

家族と災害について話すこと、インターネットやニュースで情報を得たり、避難訓練に真

剣に取り組むこと、ここまでたくさん書いてきた一つ一つの行動はとても小さなことだけど、いつ起きるかわからない災害で、自分たちの命を守れるようにこうした小さな積み重なりが、重要になると思います。

　これからも、ニュースや天気予報で災害のことを目にしたとき、「自分の家・町は大丈夫」ではなく、「自分だったらどうするだろう」と考えるようにしていきたいです。そして、自然の力はどうしようもないこと、備えの大切さを忘れずに大人になっても意識していきたいです。

佳作

土砂災害と自然との共存

豊橋市立南陽中学校　３年　河崎　虎太郎

毎年梅雨になると雨が多く降り、山間部で土砂くずれがおきたというニュースをよく耳にします。また、最近森林伐採が深刻化していることで山の斜面がくずれやすくなっています。そこで私はこの作文を通して土砂災害がどのように発生し、それと向き合い、私たちが今何をすべきかを考え、防災意識の向上につなげていきたいと思います。

そもそも土砂災害はなぜ発生し、どのような影響を及ぼすのでしょうか。実際に起こった災害をもとに土砂災害について迫っていきましょう。

平成二十六年八月二十日に広島で大規模な土砂災害が発生し、七十七名の死者と四十四名の負傷者が出た。原因としては、「まさ土」と呼ばれるもろい土が堆積しており、そこに集中豪雨が発生したことで起きたと考えられている。また、平成十六年十月二三日の新潟県中越地震では山間部のいたるところで土砂くずれが発生し、約二千世帯が孤立することとなった。原因としては、同年七月に発生した豪雨災害だと考えられている。

このようにどちらの災害も集中豪雨や地震などの自然災害が原因で発生する二次災害となっていることが分かります。このことから土砂災害はすべて、地震や豪雨などによる第一次災害によって起こっていると思うかもしれません。しかし、すべてがそうとはかぎらず、実は人間のしわざでもあるのです。

森林は「緑のダム」とも呼ばれ、雨水を吸収する機能を持っており、木の根を地中深くまで張りめぐらされており、土をしっかり支えています。これにより斜面がくずれるのを防いでいます。しかし近年、森林の木が伐採されていたり人工林の手入れが不十分なことが多くあります。このようなことがあった場合、地面は保水力を失い、土砂災害がおこることがあります。このように人間がする森林伐採も土砂災害のリスクを高める重大な要因なのです。

そのようなことを防ぐためにはどうすればよいのでしょうか。土砂災害と、その要因となる森林伐採をふまえて考えてみましょう。

土砂くずれがおきないようにするためには、森を安全な状態で維持することが大切です。その方法としては、木を伐ったら必ず植え、しっかり管理し、もとの状態にもどすということが大切と考えました。また、水はけが悪かったり、土砂くずれがおこる危険があるところには擁壁をつくり、事前に土砂災害を防ぐことが大切と考えました。そして、もし大雨が降った時、山から異様な音・においがしたら土砂災害の予兆の可能性があるため、ハザードマップなどをもとに速やかに避難し、自分の命を守る行動をすることが大切です。近年ではスマートフォンのアプリなどを通してリアルタイムで災害情報を受けとることができます。そうした情報を見逃さず早めの避難をすることが命を守ることに直結します。「まだ大丈夫」「どうせ来ない」などと考えず、過去の過ちをくりかえさないためにも過剰なくらいの警戒が必要です。

ここまで土砂災害についての話をしてきましたが、いちばん大切なのは「自分の命は自分で守る」という意識をひとりひとりが持つことだと思います。災害は、いつどこでどのくらいの規模でおこるか分かりません。だからこそ油断せずに、いつおきてもいいように日ごろからの備えともしおきた時の、的確な判断・行動をとることが、自分や家族を守ることにつながるのです。

　最後に、私がこの作文を書くにあたって感じたことは、私たちが自然と共に生きてくためには、豊かさをうまく活用し、いつかは来る災害に立ちむかわなくてはいけない。そして、その元となるものをなくすのではなく、自然と共存するためにも対策を考え、実行してゆき、新化することが大切だと考え、それを未来へとつなげ、災害の悲惨さ、防災の大切さを次の世代へと語りついでいくことが命を守る大きな力になると信じています。